

2012年1月10日

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA)

つながる人の和 復興プロジェクト気仙沼 ニュースリリース vol.55

## 「お父さん、お母さんたちと何かしたい」

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (会長 若林恭英/所在地 東京都新宿区/以下 SVA) は、宮城県気仙沼市に拠点を置き、壊滅的被害をもたらした東日本大震災の被災者支援を行っています。



### 子どもクリスマス会

「お父さん、お母さんたちと何かしたい。」大谷 (おおや) 公民館では、年間行事として毎年クリスマスにイベントを行っています。しかし、今年は、震災で公民館が避難所だったこともあり、つい最近まで公民館としての機能が失われていたといえます。「お父さん、お母さんたちと何かしたい」地元の一人のお父さんの声からはじまったクリスマスイベント。当日、12月18日には、小学生を中心に40人近くが参加しました。

まずは、子どもも大人も集まってキャンドルづくりを行います。前もって溶かしたロウソクの固まりをもとに、紙コップの中に、子どもたちが好きな色を集めていきます。紙コップの中に、別の溶かしたロウソクの蠟 (ろう) を流し込み、あとは固まるのを待ちます。

待っている間に、メインイベントのウォークラリーを開催。チェックポイントのヒントは地図ではなく1枚の写真のみ。地域の大人たちでも分かりにくいけれど、子どもたちは「ここわかった、あそこだ!」とすぐに見つけてしまいます。4つのチェックポイントには、仮装した地域の人やSVAのボランティアが立ち、クイズを出します。「翻車魚 (マンボウ)」は何て読む? 「たっぺ (アイスバーン)」とは何か? と、この地域ながらのもの。普段、防災訓練で避難している避難場所もあり、「ここ避難場所だ」と、子どもたちも知っています。ウォークラリーを終えた後には、待ってましたといわないばかりに、サンタクロースの登場です。サンタの格好をしたSVA職員がひとりひとりにプレゼントを渡していきます。また、完成したキャンドルを手に、ウォークラリー中に地域や仮設住宅に住んでいるお母さんと一緒に作ったケーキを集まったみんなで食べました。最初は緊張していたお母さんも「作っているうちに楽しくなってきた」と語ります。イベントの最後は、クリスマスイルミネーションの点灯。近所の人からいただいたモミの木に飾り付けをしました。帰り際に、立ち去ろうとした子どもが戻って来て、小さい声で恥ずかしそうに言ってくれました。「ありがとう」。



子どもたちに大人気のお母さんたちと一緒に作ったケーキ。



「お父さん、お母さんたちと何かしたい」と言っていた地域の方も自ら仮装して協力。

本件に関するお問い合わせ先

公益社団法人シャンティ国際ボランティア会 (SVA)

〒160-0015 東京都新宿区大京町31 慈母会館2、3階

Tel:03-6457-4586 FAX:03-5360-1220 E-mail:pr@sva.or.jp 担当:鎌倉

<http://www.sva.or.jp/>